

授業科目名	教育経営学
授業科目名（英字）	Educational Administration
時間割	前期 火曜日 3校時 L-6 1 1
対象年次及び学年	2年次
担当教員	柳澤 良明
ナンバリングコード・水準	B2
ナンバリングコード・分野	PDG
ナンバリングコード・ディプロマ・ポリシー(DP)	baf
ナンバリングコード・提供部局	L
ナンバリングコード・対象学生	3
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応	O
ナンバリングコード・授業形態	Lg
ナンバリングコード・単位数	2

関連授業科目	教育社会学
履修推奨科目	
学習時間	授業90分×15回＋自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）
授業の概要	現代の学校教育に関する制度的、経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。
授業の目的	第一に教員に求められる制度的、経営的事項に関する基礎的な知識を獲得することである（b：知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識）。 第二に教員に求められる制度的、経営的事項について簡潔に説明できるようになることである（a：言語運用能力／課題解決のための汎用的スキル）。 第三に教員に求められる学校組織での行動様式を理解することである（f：教職に対する使命感（教育学部のみ））。
到達目標	①学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ②子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ③近年の教育政策の動向を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ④諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑤公教育の原理及び理念を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑥公教育制度を構成している教育関係法規を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑦教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑧教育制度をめぐる諸課題について例示することができる（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑨公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑩学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたP D C Aの重要性を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑪学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑫教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑬地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑭地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑮学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している（DPの「知識・理解」に対応）。 ⑯生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している（DPの「知識・理解」に対応）。
成績評価の方法	各回の「意見カード」（50%）および「学期末レポート」（50%）による。 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。

<p>成績評価の基準</p>	<p>可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。</p> <p>【授業計画】 第1回：公教育論Ⅰ：公教育の原理と理念 第2回：公教育論Ⅱ：教育法と教育制度 第3回：公教育論Ⅲ：教育行政のしくみ 第4回：公教育論Ⅳ：教育政策の動向 第5回：公教育論Ⅴ：教育経営の諸課題 第6回：学校組織論Ⅰ：チームとしての学校 第7回：学校組織論Ⅱ：学校評価の理念としくみ 第8回：学校組織論Ⅲ：学級経営と学年経営 第9回：学校組織論Ⅳ：学校内外での協働体制づくり 第10回：学校組織論Ⅴ：学校安全と危機管理 第11回：学校参加論Ⅰ：開かれた学校づくりの展開①：戦後～1990年代 第12回：学校参加論Ⅱ：開かれた学校づくりの展開②：2000年代～現在 第13回：学校参加論Ⅲ：開かれた学校づくりの展開③：「地域とともにある学校」へ 第14回：学校参加論Ⅳ：日独比較①：学校会議の理念としくみ 第15回：学校参加論Ⅴ：日独比較②：民主主義教育の進展と生徒参加の拡大</p>
<p>授業計画並びに授業及び学習の方法</p>	<p>定期試験（実施しない）</p> <p>【授業及び学習の方法】 担当教員による説明と受講者によるコメント発表および討議によって進める。本授業は基本的に対面授業で実施する。なお、状況によっては全ての回または一部の回を遠隔による実施に変更する可能性がある。</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】 第1回：授業前に受講者は「教育経営」の意味について調べておく。授業後に受講者は授業内容を振り返るとともに自分の考えを文章にまとめ、「学期末レポート」に盛り込む内容を整理する。 第2～5回：授業前に受講者は公教育に関する文献を読み、自学自習として指定された課題について予習し、授業内で発表を求められた際に簡潔に発表できるようにしておく。授業後に受講者は授業内容を振り返るとともに自分の考えを文章にまとめ、「学期末レポート」に盛り込む内容を整理する（各回4時間）。 第6～10回：授業前に受講者は学校組織に関する文献を読み、自学自習として指定された課題について予習し、授業内で発表を求められた際に簡潔に発表できるようにしておく。授業後に受講者は授業内容を振り返るとともに自分の考えを文章にまとめ、「学期末レポート」に盛り込む内容を整理する（各回4時間）。 第11～15回：授業前に受講者は学校参加に関する文献を読み、自学自習として指定された課題について予習し、授業内で発表を求められた際に簡潔に発表できるようにしておく。授業後に受講者は授業内容を振り返るとともに自分の考えを文章にまとめ、「学期末レポート」に盛り込む内容を整理する（各回4時間）。</p>
<p>教科書・参考書等</p>	<p>必要な文献は授業中に随時、紹介する。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>水曜日5時限目（8号館4階）</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p>	<p>1. 授業資料について 授業資料は事前にMoodle上にアップし、授業ではこの授業資料を提示する。受講者は必要に応じてプリントアウトした上で授業に参加すること。</p> <p>2. 「学期末レポート」について 「学期末レポート」のテーマは第1回目示す。受講者はこのテーマを念頭において各回の授業に出席するとともに、授業以外にも自学自習を行うことにより、その成果を第15回目終了後に「学期末レポート」としてまとめ、提出すること。</p>
<p>参照ホームページ</p>	
<p>メールアドレス</p>	<p>yanagisawa.yoshiaki@kagawa-u.ac.jp</p>
<p>教員の実務経験との関連</p>	<p>附属学校での校長併任経験があります。</p>
<p>特記事項</p>	<p>障がい等により本授業の受講に際し特別な配慮を要する場合は、所属学部・研究科の学務係（医学部・医学系研究科は学生係）又はバリアフリー支援室に事前に相談してください。</p>